

湯河原中学校給食検討委員会（第8回） 会議概要

- 1 日時 令和4年9月6日（火）
- 2 場所 防災コミュニティセンター 1階101会議室
- 3 委員 中学校校長、小学校長の代表
中学校PTA会長、中学校PTA副会長
湯河原小学校PTA会長・東台福浦小学校保護者と先生の会会長
東台福浦小学校保護者と先生の会会長
東台福浦小学校栄養教諭、中学校養護教諭
参事兼学校教育課長

案件（1）

湯河原中学校給食の暫定的な実施について

事務局より

検討の経緯

令和4年2月に終了した給食施設等基本設計業務報告では、施設及び整備費の総額が約9億円となることを給食検討委員会、教育委員会、議会常任委員会等に報告しました。この報告を踏まえ、学校のあり方と併せて中学校給食施設の整備方法は再検討するものとし、この検討結果に基づき、整備が完了するまでの間、暫定的に給食を実施する方式を検討したいと考えています。

暫定的な給食実施方法については、検討に着手していますが、財政措置、効率性などのさまざまな観点からの検討を要し、かつ湯河原中学校の施設整備も想定されますので、実施までには数年を要するものと考えます。

神奈川県内の中学校給食の実施方法は、デリバリー方式（ランチボックス方式）、デリバリー方式（食缶方式）、親子方式、センター方式、自校調理方式です。この中で、暫定的に実施する給食数を500食とし、デリバリーのランチボックス方式（鎌倉市方式）、デリバリーの食缶方式（逗子市方式）、親子方式（葉山町方式）の中から検討することとし、学校給食に実績のある事業者にも事業提案していただくよう依頼しました。すでに提案書を提出していただいておりますが、全ての費用に関する見積ができていませんので、お示しできず申し訳ありません。口頭での説明となります。

まず、用語についてです。学校給食というデリバリー方式は、民設民営、完全に民間委託する方式です。民間の施設で調理したものを配送してもらい、かかる費用を町で支払うものです。親子方式は公設公営、町で施設を整備し調理配送は業者に委託しますが、運営は町で行うものです。具体的な検討方式の鎌倉市のデリバリーランチボックス方式、逗子市のデリバリー食缶方式、葉山町の親子方式が可能か、提案書を提出していただいておりますが全て、可能です。前回の検討委員会の中で、町内の業者に委託をしたい、町で支出するお金は町で循環させたいというご意見がありました。町の八百屋さん、肉屋さんで食品を購入する、湯河原町の農家さんから野菜や果物を納品してもらい、町内で新たな雇用の機会ができる町内

業者さんに参入していただくことは、どの方式でも可能です。

施設整備については、デリバリーであっても親子方式であっても、中学校に荷受室を整備することが必要になります。事務局では、学年室（基本設計のときにエレベーターを設置する予定だった倉庫の隣）を荷受室にし、扉を広く開閉できるようにし、流し、棚等を設置したいと考えています。業者に見てもらっていますが、配送車が搬出入するためのスロープは現状そのまま使用でき、学年室の広さも問題ないとのこと。

親子方式についてです。資料には湯河原小学校若しくは東台福浦小学校で作った給食を運ぶとありますが、湯河原小学校から運ぶ方式を考えています。今まで、親子方式は難しいと申し上げてきました。小学校に配膳室を増築すること、給食室を広げることが困難だからです。しかし、既に親子方式を実施している愛川町の小学校・中学校の給食施設を参観し、再検討することとしました。愛川町・葉山町は、小学校の給食室自体はそのまま、調理機器を大型に入れ替える、搬出口（プラットホーム・扉）の整備等最小限の改修で親子方式を導入したと聞き、湯河原小学校の可能性を考えてみました。湯河原小学校の給食室近くには、かつて児童の昇降口だった場所が、現在は資源ごみの回収場、資材置き場として使われているようなので、ここを中学校給食の配膳準備室とし、ここから搬出したいと考えています。給食室内の機器は、スチームコンベクションオーブン、回転釜等を大型のものに変え、(中学校の給食用食器食缶等の什器はなるべく減らし)、熱風消毒保管庫、真空冷却機、を増設する案をもっています。愛川町、葉山町とも、改修は、夏休みの期間でできたそうです。ただ炊飯機は中学校分を増やすことはせず、神奈川県給食会の委託業者に炊飯を委託したいと考えています。給食用の米を購入すれば、一人分が約30円、ごはんを納品してもらおうと、約60円と割高になってしまいますが、仕方がないと考えます。給食室の広さは限られ、児童生徒数とも減少する中、炊飯機増設はもったいないです。

デリバリー方式のランチボックス方式では、食品衛生上、おかずは10℃以下に冷ます、あるいは、65℃以上に保つ必要があります。これが、生徒から「冷たい」と不評の原因になるようです。加熱後（調理後）2時間以内に提供されることが望ましいのですが、町内で作られ、配送されるのであれば可能だと考えます。一人分ずつ盛り付けられているので、給食準備には時間がかかりません。

デリバリーの食缶方式は、「冷たい」を解消するものです。高性能の食缶を用い、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べることができます。高性能断熱食缶は2時間以上65℃以上、10℃以下をキープします。食缶方式なので、生徒が教室まで運んで配食をするという手間が、かかります。

親子方式について、もう一つお伝えすることがあります。小学校の施設で小学校給食を作ることは、何の問題もないのですが、小学校で作ったものを別の学校に運ぶとなるとその施設は、工場という扱いになります。湯河原小学校が建っている場所は、都市計画法では「第1種住居地域」で、工場としての、用途許可申請をし、許可してもらう必要があります。この申請、手続きにかなりの時間がかかります。

質問・意見等

委員

「先ず、今回この委員会を開催しましたのは、前回（5月）の委員会から、教育委員会の検討の経過、進捗状況をご報告したいという趣旨です。事業者さんに仕様書をもとに提案していただいているのですが、大まかなもので、提示された金額で本当にできるものなのか検証ができていない状態です。仮の金額で計画が進み、後でもっと費用がかかるということがないように今回、業者名、金額等をお示しすることができないということです。」

委員長

「では、今日は金額的なことは置き、方式について、さまざまな角度からご質問、ご意見を伺い共有したいと思います。」

中学校の荷受け室について、ドアの改修、手洗い施設等の設置等をしていただけるという説明がありましたが、エレベーターの設置はどのようになっていますか？」

委員

「事務局はエレベーターの設置をしなければならないと考えていたのですが、前回の委員会では、小田原市を参考に、生徒が食缶を運ぶことは問題ないというご意見をいただいています。今は、エレベーターは考えてないです。」

委員長

「それを覆すものではないのですが、自分も小田原で、3階まで給食を運ぶ施設で指導をしていた経験があります。現在はどうかわかりませんが、汁物が入っている大食缶がとても熱い、重いという記憶があります。二人で重い食缶を運ぶとき、熱い外側に触れてしまってこぼすという場面が何度かあり、いたたまれない思いをしました。エレベーター設置の費用考えると難しいのですが、エレベーターがあるといいなと思いました。」

事務局

「食缶は高性能の断熱食缶を考えています。外側に触れても熱くはないです。また、クリップ、パッキンで蓋がずれず、こぼれません。」

委員

「葉山町型の親子方式の話聞いていて、現実的になってきたなと思いました。先ほど申請のことが出ましたが難しいことなのですか。」

委員

「愛川町で申請したときは、土木事務所等との協議回数は41回になったと聞いています。許可申請には地域住民への説明会などの手続きが必要になることがあります。」

委員

「新しく建てるわけではないのですよね。」

委員

「新しく建てるわけではないのですが、湯河原中学校へ給食を運ぶとなると、その用途は工場になり、用途変更の申請が必要になります。」

委員

「ごはんは別ということでしたが、それは民間に委託するというものですか。」

事務局

「神奈川県給食会の委託工場で、炊飯したものを届けてもらうということです。湯河原では、小田原の東華軒から届きます。」

委員

「では、届けてもらうとなると小田原から来ることになりますか。」

事務局

「そうです。保温食缶で、クラス毎の飯缶方式です。暫定的な実施方法なので、児童生徒数が減少する中、炊飯機を増設するのはもったいないのと、何より設置場所がないです。」

委員

「説明を伺って、いろいろ検討をしていただいて、現実的になってきたと感じます。教育委員会では、いつごろを目途に給食開始と考えられていますか。皆さん、待っていられます。私の子供はもう卒業なので仕方がないですが、給食を経験させたかったです。先ほどの工場のこともあるでしょうし、3年後でしょうか、2年後でしょうか。」

委員

「どの方式を選ぶかによって変わってくるのではないかと思います。現在、提案書をいただいている中では、デリバリーのランチボックス方式が早期に導入できると思われま。ただ、鎌倉市は、喫食率が高いですが、デリバリーランチボックス方式は、喫食率低下のためにセンター方式や食缶方式に切り替える自治体もあります。また、今回、提案書をいただいている（デリバリーランチボックス方式の）事業者さんは、町で立てた献立の完全履行はできないとのことで、給食とはなりません。いわゆる仕出し弁当ということになってしまうと、希望される方は少なくなってしまうのではないかと思います。デリバリーの食缶方式で町内に工場を建ててもいいといわれる事業者さんもありますが、これも、（準工業地域以上の用地ではないので）、建てられるのか、いろいろな申請手続きが必要になる可能性もあり、簡単には言えません。例えば、業者さんが町内に工場を建てて配送してくれるとしても、これに、10年間で9億円支払うのであれば、町で建てればいいということもありません。湯河原中学校の荷受け室、仮に親子方式であれば、湯河原小学校の改修部分等、町が改修しなければならない部分の積算についても、できていません。ただ、教育委員会としてはできるだけ早期に実施したいと思います。」

委員

「前回、自分は弁当も給食も経験してきたのでそれぞれのメリット、デメリットについて話をしました。ここ数か月、湯河原中学校に勤務して感じた率直な意見を申し上げます。生徒保護者のことを考えたら、完全に給食がベストだと思います。ただ、校長として職員の様子を見てみると、今は給食の準備や片付けがないので、食後に生徒と一緒に過ごす、くつろげる良さがあります。また、生徒は保護者の方が用意された食事をとっているのもアレルギーの心配も一切ありません。あるいは、給食の注文は誰がするのだろうというのも心配です。温かい等の給食の良さは、前回申し上げましたが、お弁当のメリットも感じるようになりました。ただ、保護者の負担を考えたときに、歩み寄らなければならないと思うのですが、教職員にも負担のないようにご検討をお願いしたいと思います。」

委員

「前回、教育委員会から、学校のあり方の検討について聞きました。学校のあり方を検討していく中で、学校がどうなるのかがわかって、親子方式がいいのか、給食室を建てるのがいいのか考えていくのかなと思います。」

委員

「今、ここで考えているのは、暫定的な給食の実施方法です。教育委員会としては、お金はかかってしまいますが、中学校の中に給食室があるのが望ましいと考えています。ただ基本設計で、9億円かかるということがわかり、別の方法も検討してみることも必要との意見をいただき、再検討することとしました。中学校給食の実施方法は検討をするのですが、学校のあり方等も含めて考えると時間がかかってしまいます。そこで、早期にできる暫定的な方式で中学校の給食を実施しながら、併せて、その先の望ましい給食のあり方も検討していこうと考えています。暫定的な方式がいつまでというのも、また難しいところですが、早期に実施できる暫定的な方法と、学校のあり方と併せた恒久的な方法と別建てに考えていきます。ただ、暫定的と考えていたものが恒久的なものになる可能性もあります。」

委員

「素朴な疑問です。今、暫定的に、できるだけ早期にというお話がありましたが、3方式の中で、見込みとして、一番早く実現できそうなものはどれでしょうか。金額は別として。」

委員

「先ほど申し上げた通り、学校給食ではなく仕出し弁当になってしまいますが、デリバリーのランチボックス方式だと思います。」

委員

「この3つの方式、いずれになっても、全員給食ではなく、希望制ですか。」

委員

「いいえ、全員給食と考えています。ただ、仕出し弁当ですと、全員にはならないかもしれません。提案いただいているランチボックス方式を除けば、完全給食で全員給食にしたいと思います。」

事務局

「今、提案のある中で、一番早く実施できるのは、給食ではなく、業者さんによる仕出し弁当です。給食ではないので、1食当たりの食材費は450円、牛乳を加えると500円位になってしまいます。加えてこれに調理配送代等がかかります。(この業者とは別に)、町内に工場を建ててもいいと言ってくれる町内業者さんもいます。町で建てるよりは早いと思いますが、契約して、もし建てるとなれば1年半はかかると言われています。」

委員

「デリバリーのランチボックス方式はアレルギー対応もできないのですね。」

事務局

「提案書を出していただいた仕出し弁当の業者さんは、できません。新たに建ててもいいと言われる業者については、対応していただける可能性はあります。」

委員長

「では、今後としては、それぞれの方式で出されてきたものを整理して、費用も含めて提示

していただくということによいですか。」

報告事項（1）

湯河原中学校給食検討委員会会議録（第7回）について

事務局より

「前回の第7回の会議内容をまとめたものです。ご確認いただき、何か、訂正等がありましたらご連絡ください。1週間以内をお願いします。」

「給食検討委員会を終了させていただきます。議事進行にご協力いただきありがとうございます。次回の会議日程はあらためて事務局が調整していただけますか。」

事務局

「はい。ご連絡します。」